



社会貢献大賞

和歌山県遊技業協同組合  
「福祉関係施設への備品等寄贈」事業



社会福祉法人 和遊協社会福祉事業  
協力会 事務局長  
加門仁さん

**選考理由**  
社会貢献活動審査委員会 委員長代行  
脇田直枝氏



和遊協は平成2年に「社会福祉法人」の認可を受け、知的障害者施設や保育所を対象に長年にわたって助成事業を継続実施してこられました。一時的な、単なる物品供与ではなく、自立や収入につながり、作業能率を高める機器の助成であることが特性です。働く喜びを与え、生活の手立てとなる支援こそ、本来社会が担わなければならない事業でしょう。暖かい「親心」を感じ満場一致で大賞に決定です。

行政の手が届かない施設へ 18年間

全国には数多くの福祉施設や保育園がある。社会的な必要性が高いにもかかわらず、これらの施設の運営資金は潤沢ではなく、行政の支援も十分とはいえない。いつも何か不足し、利用者たちが不便を強いられているというのが実状だ。

和歌山県遊技業協同組合では平成2年度より、助成活動を18年間続けてきた。2008年度までの助成額の累計は5億2000万円を超える規模になっている。この事業のために、平成2年8月に「社会福祉法人」の認可を受けた組織を立ちあげた。

和遊協社会福祉事業協力会の加門仁 事務局長はその経緯を次のように語る。

「県内の施設の状態を見て、福祉活動の重要性や必要性をひしひしと感じましたので、少しでも多くの支援の手を差し伸べたいという気持ちで始めました。社会福祉法人にしたのは税制的な意味と、活動のしやすさからです」

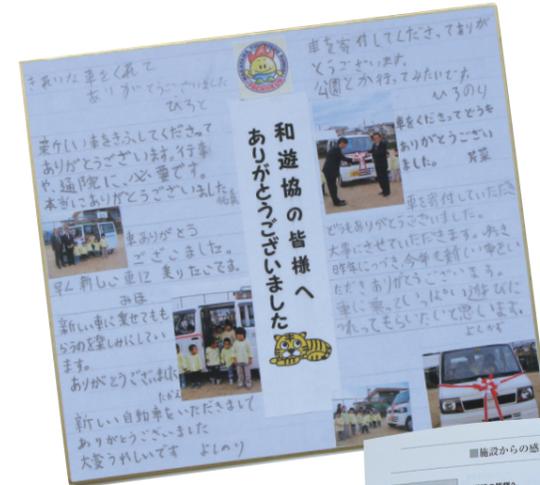
助成は毎年、6月1日に受付を開始し8月20日に締め切り、県の共同募金会や社会福祉協議会、日本赤十字社とも相談をした上で助成先を決定するそうだ。他の団体と協議を行うのは少しでも多くの施設に助成するため、ダブルにならないように配慮しているのだという。偏りを無くすために、その他にもさまざまな点を考慮した選定基準がある。申請先の過去の助成回数や助成金額、地域ごとのバランス、公共性や緊急性なども考慮に入れる。

原則として1施設1物件を提供する。限度額は100万円だ。申請する側は希望する商品を書類で提出するのだ。主な助成の対象は福祉施設や保育園などで、2008年度は117件の応募があり、助成件数は62件、助成額は2,000万円となった。

和遊協社会福祉事業協力会には、今年もそうした施設からの感謝状が届いた。毎年行っている助成活動に対するお礼だ。中には幼い子どもたちがいっしょけんめいに書いたと思われる色紙などもある。どれも喜びの言葉でいっぱいだ。

助成金額については、加門さんは苦しい台所事情を語った。

にわたり今必要なものを提供し続ける



組合発行の情報誌「ふくし」



福祉施設の子どもたちから感謝の色紙が寄せられた

「以前は3,000万円を基本として助成を続けて来ましたが、店舗の休・廃業や加入金の減少などから、一昨年から減額を余儀なくされました。長引く不況のために、非常に厳しい経営環境にありますが、社会貢献活動の重要性を認識し、組合員の皆さんのご理解とご協力を得ているところです」

助成の財源となっているのは、現在県下にある約110ホールから寄せられる浄財で、それをプールして当てているのだ。他県同様、和歌山県もピーク時の200店舗からずいぶん減ってしまったが、約98%のホールが社会福祉に対する活動に理解を示して、協力してくれているそうだ。

助成は物品が多い。福祉車両、洗濯機、コピー機、冷凍冷蔵庫、パソコン、ミシン、会議用テーブル、AED(自動体外式除細動器)セットなど多様だ。

変わったところでは、保育園の調理室用に水道のオゾン生成装置の提供で食中毒を防止するなど、子どもたちの健康づくりに役立っている。

また、福祉施設に空き缶圧縮機も贈った。この施設では協力者が地域から回収した空き缶を分別・圧縮して専門の業者に買い取ってもらっているのだが、これまでは足で踏んで圧縮していたため、1時間で100個程度しか処理できずにいた。圧縮機を使うと、1時間に2000個もの処理ができるという。



ひまわり作業所にコピー機が贈られた



こじか保育園にはオゾン水生成装置が贈られた



山水会にコピー機が贈られた



コスモス作業所には食品乾燥機が贈られた

助成した施設には、藤田昌之 理事長や県下の14支部の支部長らが出向いて目録を渡しているが、いつも大歓迎されるそうだ。

「本当に喜んでくれます。その他にも感謝状などがたくさん届きます。また訪問した先々の施設では福祉のために頑張っている人たちの姿を目にします。そうしたことが私たちの活動の活力になっている。ホールの皆さんにもお知らせするために、「ふくし」という情報誌に感謝状や活動状況を掲載しています」

なんとといっても、活動の根底を支えているのはホールである。そうしたホールの努力に少しでも報いることができるような施策をこれからも出していきたいと加門さんは話してくれた。

前述の情報誌「ふくし」の中で藤田昌之 理事長は次のように述べている。

「これからも『地域社会との共生と業界の社会的地位の向上』を目指して、社会貢献活動を続けていく」と。

もっとも重要なことは「いかに継続させるか」にあるという。今回の大賞受賞も会員のモチベーション維持には役立ちますかと尋ねた。

「たいへん名誉なことで、会員一同喜んでいますが、また全国の皆さんに私たちの活動を見ていただいて、いっしょにがんばる気になってもらえそうですし、参考にもらえるということでありたいことだと思っています。ただ、私たちは大賞をいただくために活動を続けてきたわけではありませんから、これを励みにして、これからの活動を考えていきたいと考えています」

これまでの18年間とは違った新しい動きもでてきている。

助成の対象外の施設からも助成の申請が寄せられる。例えば特別養護老人ホームやNPO法人だ。これまでは、支援の枠が広がりすぎたため対象外としてきたが、社会状況の変化の中で対象も見直す必要があるかもしれない。また長引く不況の中で財源がますます難しくなることも考えられる。こうした難しい局面ではあるが、1件あたりの助成額を絞るなど工夫して、臨機応変に続けていくという話だった。

地域社会との共生なくして、この業界は生き残ることができない。どのような形で地域社会とつながっていくのがよいのか、和歌山県遊技業協同組合のチャレンジはこれからも続く。

平成20年度 助成物品一覧

品名	個数	品名	個数
パソコン(ノートパソコン)	4	豆腐パック用器具	1
AEDセット	3	ハイドロピュア(逆浸透膜浄水器)	1
洗濯機	2	防火カーテン	1
冷凍冷蔵庫	2	移動式絵本立て	1
軽自動車	2	農作業備品、耕運機	各1
エアコン	2	オゾミック(オゾン水生成装置)	1
コピー機	2	プラズマテレビ他	1
空缶圧縮機	2	木工用集塵機	1
オープンレンジ	2	乾燥機、電気コンロ	各1
ラベルプリンター	2	野菜乾燥機	1
ソファ	2	調理台	1
会議用テーブル	2	ロッカー	1
ハンドベル、玉すだれ	各1	刈り払機	1
給食用食器	1	電磁調理器	1
絵本棚	1	炊飯器、鋳物バーナー	各1
食堂用椅子	1	梱包用シーラー、テーブル	各1
コンテナ	1	耕運機	1
点字名刺作成機	1	チェーンソー、刈り払機	各1
自動火災報知機	1	製パン用ミニモルダー	1
プチ三輪車	1	エプソンプロジェクター、スクリーン	各1
キャスター付運搬車	1		

大地震の時、お役に立ちます！  
全国初「災害支援等の協力に関する協定」を締結

AJOSCでは平成21年1月に「社会貢献フォーラム～災害と社会貢献～」を開催したが、大規模災害時におけるパチンコホールの社会貢献策として、和歌山県遊協は先駆的な取り組みを行っている。

平成17年4月27日に全国で初めて、県との「災害支援等の協力に関する協定」を結んだ。和歌山県の周辺地域は今後30年の間に大規模地震が発生する確率が50～60%といわれ、それに対応するためだ。



写真はイメージです。(財)消防科学総合センター

その概要は次の通りである。

○災害時の支援協力

- ・沿岸地域における住民の津波からの一時避難場所としての施設の提供
- ・救援物資等の一時保管場所(荷捌き場等)としての施設の提供
- ・他地域からの緊急消防援助隊等応援車両の集結場所(駐車場)としての施設の提供
- ・緊急ヘリポート用の施設の提供
- ・緊急時の防災資機材等の一時保管場所としての施設の提供

○平常時の支援協力

- ・災害啓発用看板等の設置場所の提供
- ・県/市町村等の防災イベント等の広報に対する協力(折り込み広告等への掲載)